

思ふ所の「へーがま」

「へーがま」をご存知ですか。昭和三〇年代まで日野沢で操業していた石灰工場の中心的設備である。

石灰石を焼く炉の口を私たちは「へーがま」と呼んでいました。

製品化された白い粉を「しべー」といったような記憶もある。

この谷間の約一キロメートルの範囲に三ヶ所の砕石場があり地形に応じて、ロープウェイで石灰石をそれぞれ炉に運んだのである。

私の生家の近くに工場があった。



前の山の中腹を横断して採石場と工場間に鉄索が張られていた。

それに砕石を詰めた木製の箱が転む滑車かじしゃにぶら下がり往き来するのを眺めていたことや、冬場に炉の熱を勝手に利用して洗濯物干し場になっていた母について行き、しがみつきながら子ども心には大きく見えた穴の中の真赤に焼けた石とそこからめき立つ炎をうかがいながら思ふ所の「へーがま」。

なぜ廃業したのか分らないが、遠い昔の一時期一大産業としてこの寒村に貢献した筈である。

炉の多くが道路の拡張などで姿を消した中で、山の斜面の石垣と丸太組みの杉皮葺きの上屋が傾きつつも現存する「へーがま」は、貴重な財産であり、思ふ出と共に何とか守りたいものである。

（ 木 ・ 山 ）

映画 「ふじのくにの憲法」 を観て

秩父地域10数ヶ所で上映された、松井久子監督のドキュメンタリー映画です。憲法が危ない状況や、参院選を目前にしている現憲法の学び直しという印象を受けました。

押し付けといわれる憲法ですが、戦後国民がどれだけ歓迎したか、明治憲法との違いや自民党の憲法草案の危険さ等を、孫崎享さんが戦後史やアメリカとの関係などから説明された事は胸に落ちるものでした。

国連のPKO活動で武装解除の仕事をしてきた伊勢崎賢治さんの、紛争当事国ではない所に自衛隊基地を作った時点で、後盾としてきた9条に対して絶望的な気持ちになっという様子には考えさせられました。

今の、この危ない状況の中で私は、第十二条の「国民の不断の努力」で憲法を守っていかねばならないという事を突き付けられたような気がしました。

知子のひまわり



常山 知子

公的年金積立金が5兆円を超える損失を出した」と各マスコミが報道。どうしよう？という新聞を読んでみるよ・・・

国民のみなさんから保険料として預かった積立金。その積立金を運用する独立行政法人が2015年の決算で5兆数千億円にのぼる巨額の運用損失を出したというのです。どうしよう。アベ政権は株をこり上げる為に、この積立金を危険な株式運用に投じました。今までは20%位の運用は認められていたのに、50%に拡大したのです。この積立金は誰のもの？言うまでもなく国民みんなのものです。

老後の安心した生活を保障するものです。そうした大切な資金は安定した運用が大事です。高いリスクの運用で損失がでれば、その被害は私たちにおそってきます。年金削減や保険料の引き上げという形で・・・そんなの「メメント」です。赤旗新聞潮流にネットで話題の川柳が載っていました。アベ政治 道なかば下から読めばばかな道く早く終わらしたくないです。

**戦争法（安保法制）廃止の
国民連合政府を！
野党は選挙協力を！**

生活・法律相談 お気軽にご相談下さい
町議会議員 常山 知子
電話・FAX 62-6733